

DJ Magazine 5月号(2018)

ドキュメンタリージャパン

vol.27 2018.5.1

映像制作会社ドキュメンタリー
ジャパンが今お届けするテレビ
番組や映画のお知らせです。

Topics

1 堤真一 × アメリカ 謎の古代遺跡 ～先住民3000年の記憶～

放送予定：NHK-BSプレミアム 5月23日(水) 午後9:00～10:30

つづき
製作スタッフの

「アメリカへ行きたい。先住民の過去と今の姿を見たい。」という堤さんの一言が今回の旅の始まりでした。とはいえ、アメリカの先住民、いわゆるアメリカインディアンという人々のことは、今更目新しいことではないのではないかと。ところが調べてみると知らなかったことばかり。「アメリカの歴史は新しい」というのは、大きな間違いだったことに気づかされました。そしてアメリカは今も結構な田舎町であることも。乞うご期待です!

ディレクター 山口 恒治

俳優・堤真一の大自然紀行、第5弾。今回はアメリカの絶景を旅し、知られざる古代文明の謎に迫ります。訪ねるのは、東南部のポバティ・ポイント遺跡から、南西部の遺跡集中地帯グランド・サークルまで。岩壁の洞窟に築かれた集合住居跡や砂漠の巨大都市などを訪ねながら、遺跡を造った人々の末裔たちとの出会いを重ねます。そして、旅の最後に待っていたのは、“世界一美しい夜明け”でした。



新日本風土記「太郎の国」

放送予定：NHK-BSプレミアム 5月 4日(金)午後9:00～9:59

(再放送) 5月11日(金)午前8:00～8:59

Topics 2



おなじみの「桃太郎」「金太郎」「浦島太郎」だけでなく、日本各地には数々の「太郎伝説」が残る。「桃太郎」で有名な岡山では、古い村史に桃太郎の名があったり、人形を子供に贈る風習が残っていたり。秋田には、旅人の姿をした龍「八郎太郎」、雪深い新潟の地域では、春になると姿を消す「雪太郎」の伝説が。今も暮らしのなかに息づく太郎たち。厳しい風土を太郎と分かち合いながら生きる人々に出会う。

Topics 3 地球絶景紀行「コートダジュールとマリア伝説」

放送予定:BS-TBS 5月23日(水)午後9:00~10:00



南フランスを舞台にめぐる2泊3日の絶景旅行へ。旅の始まりは地中海に面したリゾート地、ニース。熱狂渦巻くカーニバルを堪能します。2日目はフランスで最も美しい村の1つ、ルシヨン。村じゅうを彩る赤色の秘密に迫ります。そして最終日は南仏が誇る聖地、サント・ポームへ。洞窟の教会で受け継がれた祈りとは・・・優雅なリゾートイメージだけではなく、知られざる南フランスの姿に迫ります。

つづき
つづき
つづき

ロケ時、ヨーロッパには大寒波が襲来していました。まだ春先だったとはいえ、南仏のイメージとは異なる凍えっぱなしの撮影がつづき、体力を消耗。行く先々で街の魅力を尋ねても、最後には「でも、この天気ではね」と言われる始末。しかし、そう語る人々の表情はどこか晴れやかで楽しそう。そして聖地サント・ポームでは、寒波が味方して幻想的な光景に出会えました。南フランスの“神秘”をご堪能ください。

ディレクター 渡部 啓介

News

ドキュメンタリー・ジャパン 新人紹介!!

今年もDJに新しく4人のスタッフが加わりました!果たしてどんな個性を持った面々なのか...?ひとまず「好きなテレビ番組」について聞いてみました。



鹿野 諒

好きな番組「2355」

ごはんを食べたあと最後に飲むあたたかいほうじ茶。あるいは、家族がみんな眠り、シーンとなった部屋でこっそり小さく流されているラジオ。あるいは、夜中散歩していたら出会った猫。そんな感じの雰囲気が好きです。



鹿沼千種

好きな番組「BSプレミアム『京都人の密やかな愉しみ』」

ドキュメンタリー・テレビドラマ・料理教室コーナーなど異なる演出を組み合わせ、京都の生活文化を紹介していて、終始飽きる事なく見てしまいます。BGMの選曲や京言葉の注記にもこだわりが表れていて魅力的でした。

好きな番組「テレメンタリー『東京クルド/TOKYO KURDS』」
番組というより、なのですが。バイトとして働きはじめて、数日経った日、TokyoDocsで観ました。意識的に目をそらしたものを、ガツンと見せつけられたような気がしました。今でも、映像が頭にこびりついています。



加納 土

好きな番組「情熱大陸」

対象者と作り手の関係性がダイレクトに伝わってくる感じが好きです。普通は見えないところまで見せてもらえるのも好きなポイントです。いま、その番組の制作に少しでも関わることができて、毎日すごく楽しいです。



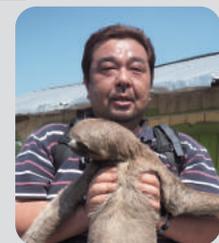
鈴木 総平

第21回

ディレクター 新井章仁

【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリー・ジャパンのスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～



ドキュメンタリーは“パンツを脱ぐ闘い”である。

作品を世に送り出すことは、自分の恥部をさらけ出す行為だ。人生観、生き様が否応なしに浮き彫りになる。相手の内面に迫る!と言うけれど、“パンツを脱いで”己をさらさない、能書きだけでは心の扉は開かない。カメラが回ってない時に行う、その非効率な儀式こそ、大切だと思って、魑魅魍魎と闘う日々だ。

バトンを渡す相手

⇒プロデューサー 橋本佳子さん

数々の修羅場をかいくぐってきた百戦錬磨の橋本哲学を!

制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です!
詳細はドキュメンタリー・ジャパンのHPまで。

編集後記

映画「ペンタゴン・ペーパーズ」を観た。メディアをコントロールするトランプを抱える今のアメリカで生まれるべくして生まれたものだろう。1974年私は渡米し、7歳位のあどけない子供からNixon Pennyなるお土産をもらった。映画に描かれた新聞による米政府の内部告発から3年のその年、ニクソンは辞職。ドルの価値を下落させた大統領の記念品は、本物の1セントコインの1/4サイズで作られたユーモアと批判精神溢れる物で、子供達が大統領について堂々意見を述べるのに驚いた。日本の子供はそう育ってなかった。今SNSに熱中する子供・若者達へ、何をどう伝えるか、その責任と意義は小さくない。

(A.M)

Design by HARIMA koutarou